

【テーマ2:学習科学に基づく授業研究モデル開発】

【団体名】聖心女子大学

一社)教育環境デザイン研究所CoREFプロジェクト推進部門、及びCoREFと連携する全国29の自治体・学校等による授業研究コミュニティ「新しい学びプロジェクト」と協力し、1350名のプロジェクト参加教員、275名の埼玉県高等学校初任者研修受講教員、42名の本学学生(「教育方法(含むICT)」受講者)を対象に実施。

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 資質・能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」をデザインする教員の力量形成には、授業研究の高度化が不可欠である。しかし、教員の多忙化や孤立、ベテランの大量退職等が質の高い授業研究の実施を困難にし、若手教員の力量形成が課題となっている。

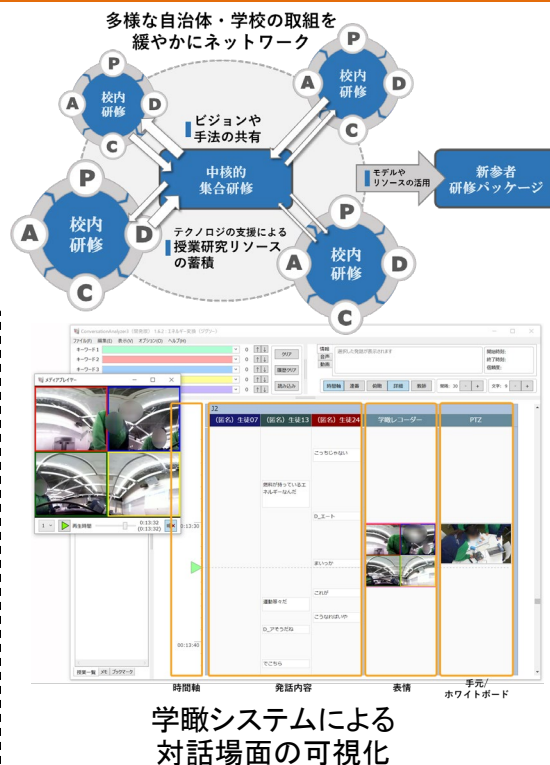
モデルの概要

- ◆ モデルは、多様な教員が協働してデザイン・実践・見とりのサイクルを回すことを支える授業研究コミュニティを基盤とする。このコミュニティ全体で理論や手法、テクノロジーの活用を学ぶ「中核的研修モデル」、学んだことを基に、各学校の課題や文脈に即して授業研究を行う「校内研修融合モデル」、コミュニティの授業研究のノウハウやリソースを初任者・大学生の研修に転用する「新参者モデル」という3つのモデルを開発する。

活用する技術・ツール等

- コミュニティにおける授業研究のリソースをまとめたデータベース「学譜システム」
- 学びの過程を可視化し、見とりを支援する「学瞰システム」

高度化に資する取組



- ・「中核的研修モデル」として5つの研修プログラムを開発
- ・「校内研修融合モデル」の授業研究を支援・調査
- ・「新参者モデル」として全6日の初任者研修プログラム、大学教員養成課程でのオンデマンド授業研究プログラム、8本の講義動画開発
- ・上記を含む成果を「協調学習授業研究ハンドブック」として整理



学瞰システムを活用した学生向け
オンデマンド授業研究の様子

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ 子どもの学びの事実をテクノロジーも使って可視化し、そこに焦点化した議論を行うことで、授業研究を、多様な力量を持つ教員や新参者が主体的に参加できる場にする
- ◆ テクノロジーの活用を授業改善のゴールや授業研究の視点と結び付け、必要感を持って授業研究にテクノロジーを使う文化を醸成する
- ◆ 集合研修での学びと校内研修での学びに一貫性を持たせるよう校内研修の場をデザインすることで、教員の孤立を防ぐ
- ◆ 授業改善の中核教員が授業研究のミドルリーダー、ファシリテータとして育ち、機能する(活躍できる)場を提供する